

# 『大島で学び育つことに誇りを持ち、夢に向かって行動する』

## たくましい“おおばたけっ子”の育成をめざした剣舞の伝承』

柳井市立大島中学校

### 1 はじめに

柳井市大島は、大島瀬戸に面し、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた風光明媚な場所である。平成17年2月21日に柳井市と旧大島町が合併し、柳井市大島となり現在に至っている。また、大島は古くから周防大島（屋代島）への玄関口であり、交通の要衝として栄え、明治維新の志士に大きな影響を与えた僧月性の誕生地としても有名である。

大島中学校は、全校生徒37名の小規模校で、瀬戸内海や大島大橋が見渡せる高台にある。他地区の例に漏れず大島地区も少子高齢化が進み、ここ近年は各学年10名前後で推移している。学校教育目標の『広い世界に目を向け、自己の殻を破る“おおばたけっ子”の育成』に向けて、地域とともにある学校づくりを推進し、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を展開している。

### 2 活動の概要

#### (1) 剣舞について

柳井市大島地区は吉田松陰の盟友である僧月性（大島遠崎の妙円寺住職）の出身地である。大島の人々は、幕末維新の志士を育てた吉田松陰は全国的に有名であるが、その吉田松陰に思想的影響を与えたのは僧月性であり、明治維新を成し遂げた真の功労者は大島の僧月性であるという自負をもっている。そのため、僧月性が作った「将東游題壁（まさに東遊せんと壁に題す）」という漢詩に詩吟をつけて舞う剣舞を作り上げ、これを大島地区の児童生徒に教え伝えることを長年行ってきた。この漢詩は、別名「立志の誌」とも呼ばれ、志を立てたならば、どんなことがあってもそれをやり遂げるという意味が込められている。



剣舞の様子1

月性剣舞保存会の皆さんとの地域連携教育の取組として、子どもたちが初めて剣舞にふれるのは小学校5年生の時、その年の9月に行われる小中学校合同運動会で舞うことになる。その後、中学校2年生になった時には、その経験を生かして9月の運動会と2月の「立志の集い」で剣舞を披露する。それぞれの場において、保存会の方々には剣さばきだけでなく、指先に至るまでの細やかな動作、鋭い視線の使い方、かけ声の響きまで事細かに指導してくださる。

## (2) 「立志の集い」について

例年、「立志の集い」では、第1部を「立志式」、第2部には「お祝いの会」として実施し、第1部の「立志式」では、2年生が「立志の誓い」、「書道パフォーマンス」、「剣舞」を行い、第2部の「お祝いの会」では、地域の方々の協力による餅つきと豚汁を囲む会食が行われる。

「立志の誓い」では、在校生（1・3年生）、保護者、地域住民、教職員等が見守る中、漢字2文字に託した自分の志と家族や地域の方々への感謝の思いを一人ひとりが述べる。

続く「書道パフォーマンス」では、2年生全員による書道パフォーマンスを行い、大きな紙に力強い書道を披露する。

そして最後に、2年生全員が剣舞を舞い、志の高さを示す。立志式における剣舞は、2年生の気持ちが現れたものであり、非常に厳粛な雰囲気の中で、凛々しさが会場いっぱい伝わるものとなっている。

この「立志の集い」は、伝統があり地域や保護者からの関心も高く、やり遂げた生徒にとっては、4月から最高学年になる自覚をもつことのできる節目の行事となっている。



誓いを抱える生徒たち



書道パフォーマンスの様子

## (3) 今年度の活動及び成果について

今年度は、これまでコロナ禍で行われなかった第2部も実施することができ、大変盛大なものとなった。「立志の誓い」では、地域からの来賓や保護者、そして上級生下級生の見守る中で「誓いのことば」を発表しました。生徒は、親や地域の方への感謝の気持ちを伝えることを通して、自分を見つめるとともに自分の生き方を考え、大人への第一歩を踏み出す機会となった。また、「書道パフォーマンス」の中で、2年生が学年全体の指針として掲げた



剣舞の様子2

「大志」の言葉は、これからの彼らの人生において大きな意味をもつ言葉となるであろう。第1部の最後となる大畠地区の伝統である剣舞では、練習時間が限られていた中、保存会の方々からの一つひとつの動きをさらに良くするための熱のこもった指導のおかげで、立ち振舞や大きな声など、9月の運動会時期に比べて堂々とした姿が見られるようになっていた。

### 3 今後の課題

「立志の集い」が単なる恒例行事とならないよう、この行事のもつねらいや意義を生徒のみならず、地域、保護者にもわかりやすく示すための改善をしていくとともに、地域全体でこの行事に何を求めるのかをしっかりと検討、共有した上で、内容等も工夫していける、そのような体制づくりをめざしたい。

また、「立志の集い」には、地域ぐるみで子どもを育てるためのつながりづくりの行事という意味合いも含まれていると考えており、これからも地域コーディネーターと協力し、幅広く地域、保護者に実施に向けた協力への声かけを続けていきたいと考えている。

この行事を通して、これから先も生徒がふるさと大畠を愛し、大畠地区に脈々と流れる志の高さをもち続け、そして将来、大畠を背負う人材となってくれるものと信じている。

